

GA333

言語文化演習－アジアから見た日本－

鈴木 靖

配当年次／単位：3～4年／4単位

旧科目名：

旧科目との重複履修：

毎年・隔年：毎年開講 | 開講セメスター：春・秋

人数制限・選抜・抽選：選抜

他学部への公開：×

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

中国や台湾、韓国などアジアの人々の対日イメージと日本人の自己イメージとの間には大きな懸隔があり、良好な近隣関係を築く上での障害となっている。この授業では「アジアから見た日本」をテーマに、これらの国や地域と日本との政治的関係や文化的交流の歴史を概観するとともに、アジアの人々の対日イメージに大きな影響を与えた事件や人物に焦点を当て、それらが当該国や地域の教育やテレビ・映画などを通じてどのように語り伝えられているかを学ぶ。

【到達目標】

アジアの人々の対日イメージがどのように形成されたかを理解し、日本とアジアという双方の視点から問題を考える力（「共感力」empathy）を養い、国際社会人として円滑な異文化間コミュニケーションを行う力を身につける。

【授業の進め方と方法】

春学期には、台湾でベストセラーになった『図説・台湾の歴史』をテキストに、その歴史を概観するとともに、台湾の人々の対日イメージに大きな影響を与えた事件を取り上げ、それが台湾の歴史教科書やテレビ・映画の中でどのように描かれているかを考える。

秋学期には、中国と日本のはざまに生きた一人の台湾人青年の生涯を描いた『ある台湾知識人の悲劇』をテキストに、日本統治時代に生まれ彼が、日本での留學生活を経て、戦後台湾に戻った後、国民政府によって処刑されるまでの足跡を辿り、この時代の台湾の歴史を追体験する。その後、若林正丈著『台湾——変容し躊躇するアイデンティティ』をテキストに、台湾人アイデンティティの形成・変容と、それが対日イメージに与えた影響について考える。

授業では、毎回担当を決め、テキストの内容をプレゼンテーションするとともに、台湾の歴史教科書やテレビ・映画などの関連資料を通じて、台湾の人々との歴史認識の違いや異文化間コミュニケーションの在り方をテーマとした課題解決型の学習を行う。

夏合宿では、日本と台湾との交流に関連した校外実習を行う。

秋学期には、現地取材をもとにドキュメンタリー映像作品を制作する。昨年度は台湾の人々にいまでも敬愛されている日本人警察官・廣枝音右衛門の慰霊祭取材し、その生涯を紹介するドキュメンタリー映像作品を制作した。

【授業計画】

春学期

回	テーマ	内容
第1回	なぜ台湾の歴史を学ぶのか？	『図説・台湾の歴史』を輪読する 目的と到達目標を確認し、同書の発表分担や課題解決型学習の進め方について話しあう
第2回	先史時代の台湾と先住民たち	同書の第2章と第3章をもとに、先史時代の台湾と先住民について学ぶ
第3回	オランダ統治下の台湾	同書の第4～6章をもとに、オランダ統治下の台湾と漢族移民および先住民と関係について学ぶ
第4回	鄭氏政権下の台湾	台湾を拠点に異民族王朝である清に抵抗を続けた鄭成功ら鄭氏政権について学ぶ
第5回	日本統治下の台湾① 日本の領台からタバニー事件まで	同書の第7～8章をもとに、日本の領台から二大抗日事件の一つであるタバニー事件（西来庵事件）までを学ぶ

第6回	日本統治下の台湾② 霧社事件	二大抗日事件の一つである霧社事件に焦点を当て、今日の台湾の歴史教科書やテレビ、映画などがこの事件をどのように描いているかを考える
第7回	日本統治時代の台湾③ 反植民地運動	同書の第9～11章をもとに、日本統治の台湾での反植民地運動について学ぶ
第8回	日本統治時代の台湾④ 戦時下の台湾	同書の第12章をもとに、戦時下の台湾について学ぶ
第9回	日本統治時代の台湾⑤ 軍人・軍属の動員と戦後補償問題	台湾からの軍人・軍属の動員と戦後補償の問題に焦点を当て、今日の台湾の歴史教科書やテレビ、映画などがこの問題をどのように描いているかを考える
第10回	国民党独裁体制下の台湾① 2・28事件と白色テロ	同書の戦後編第1～2章をもとに、戦後台湾で起こった最大の弾圧事件である2・28事件について学ぶ
第11回	国民党独裁体制下の台湾② 2・28事件と白色テロの犠牲者たち	台湾人の対中国イメージに大きな影響を与えた2・28事件や白色テロの犠牲者に焦点を当て、今日の台湾の歴史教科書やテレビ、映画などがこの問題をどのように描いているかを考える
第12回	民主化運動から現代へ①	同書の戦後編第3～4章をもとに、台湾の民主化運動とその成果について学ぶ
第13回	民主化運動から現代へ②	民主化以降の台湾の歩みを歴史教科書や新聞記事などを使い整理する
第14回	台湾の対日イメージ	中国や韓国との比較を通じて、台湾の対日イメージの特徴と課題について考える
第15回	まとめ	春セメスタの学習内容を振り返り、その成果をe-Portfolio上に整理する
秋学期		
回	テーマ	内容
第16回	なぜ葉盛吉の足跡を辿るのか？	『ある台湾知識人の悲劇』を輪読する目的と到達目標を確認し、その発表分担と課題解決型学習の進め方について話しあう
第17回	植民地台湾に育つ	同書のプロローグと第一章に描かれた葉盛吉の少年時代をもとに、日本統治下の台湾の子供たちがどのような少年時代を過ごしていたのかを追体験する
第18回	日本留学の日々（一） 二年間の浪人生活	同書の第二章に描かれた葉盛吉の浪人時代をもとに、台湾の青年が日本でどのような浪人生活を送っていたのかを追体験する
第19回	日本留学の日々（二） 二高時代①	同書の第二章に描かれた葉盛吉の二高時代をもとに、台湾の青年が日本の旧制高校でどのような留學生活を送っていたのかを追体験する
第20回	日本留学の日々（三） 二高時代②	前回到いて、同書の第二章に描かれた葉盛吉の二高時代をもとに、台湾の青年が日本の旧制高校でどのような留學生活を送っていたのかを追体験する
第21回	日本留学の日々（四） 東大進學と日本の敗戦	同書の第二章に描かれた葉盛吉の東大時代をもとに、台湾の青年が日本の大学でどのような留學生活を送っていたのかを追体験する
第22回	台湾で生きる（一） 国共内戦	同書の第三章に描かれた帰台後の葉盛吉の足跡をもとに、国共内戦下の台湾を追体験する

管理 ID：
1705235
授業コード：
C1111

第 23 回	台湾で生きる (二) 赤狩りと白色テロ	同書の第三章に描かれた国民政府による葉盛吉の逮捕から処刑までをもとに、赤狩りや白色テロの時代を追体験する
第 24 回	台湾人アイデンティティの誕生	『台湾～変容し躊躇するアイデンティティ』を輪読する目的と到達目標を確認し、同書第 1～2 章をもとに、日本統治下で形成された台湾人アイデンティティについて考える
第 25 回	2・28 事件と白色テロが残したもの	同書第 3～4 章をもとに、2・28 事件が台湾人アイデンティティに与えた影響について考える
第 26 回	台湾ナショナリズムと民主化への道	同書第 5 章をもとに、台湾ナショナリズムの形成と民主化への道を考える
第 27 回	エスノポリティクス	同書第 6～7 章をもとに、民主化後の台湾におけるエスノポリティクスについて考える
第 28 回	中国と台湾	同書第 8～9 章をもとに、中台関係の現状と日本との関わりについて考える
第 29 回	まとめ	秋セメスタの学習内容を振り返り、その成果を e-Portfolio 上に整理する
第 30 回	個人研究発表	4 年生の個人研究の合評会

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

- ・発表者は、テキストの内容をパワーポイントを使ってわかり易く報告できるよう準備をする
- ・発表者以外は、テキストの当該箇所を精読するとともに、他の関連資料を参照し、批判的思考をもって意見や質問を行えるよう準備する

【テキスト（教科書）】

【春学期】

- ・周婉窈著『増補版・図説台湾の歴史』（平凡社、2013 年）

【秋学期】

- ・楊威理著『ある台湾知識人の悲劇』（岩波同時代ライブラリー、1993 年）
- ・若林正丈著『台湾——変容し躊躇するアイデンティティ』（ちくま新書、2001 年）

【参考書】

〔書籍〕

- ・呉濁流著『夜明け前の台湾』（社会思想社、1972 年）
- ・戴國輝編著『台湾霧社蜂起事件 研究と資料』（社会思想社、1981 年）
- ・内海愛子『戦後補償から考える日本とアジア』（山川出版社、2002 年）

〔映像〕

- ・テレビドラマ『風中緋桜』（万仁電影有限公司制作、2003 年）
- ・映画『賽徳クバ菜（セデック・バレ）』（2011 年制作）

【成績評価の方法と基準】

成績は、毎回以下の項目について 5 段階の自己評価をしてもらい、その合計点で評価する。

- ①遅刻や早退、無断欠席などをすることなく、演習のマナーを守ったか（25 %）
- ②輪読資料を事前に精読し、意見交換ができるように準備したか（25 %）
- ③他のゼミ生の発表をしっかりと聞き、積極的に意見や質問を行ったか（25 %）
- ④教室内で飲食などをすることなく、またゼミ終了後は教室内の清掃や機材の片付けを行ったか（25 %）

【学生の意見等からの気づき】

昨年度のテキストは入手しにくいものであったため、今年度は入手しやすいものを選んだ。

【学生が準備すべき機器他】

演習の活動は HOPS（e ポートフォリオ）を活用して行う。URL は、

- ・言語文化演習（アジアから見た日本）

<https://epf.hosei.ac.jp/mahara/group/view.php?id=21>

授業の中では次のような情報機器を使用する。

(1) プレゼンテーション

パワーポイントを使ってわかりやすく伝える技術を身につける

〔使用機材〕 P C、パワーポイント、プロジェクタ、スクリーンなど
(2) ディスカッション

マイクを使ってはっきりと意見を述べ、また他者の発言にしっかりと耳を傾けるというディスカッションの基本的なルールを身につける

〔使用機材〕 マイク、教室内の拡声装置

(3) 現地取材

取材の申し込みから、現地でのインタビュー、映像撮影、インタビューの起こし、礼状の送付までの一連の作業を通じて、コミュニケーション能力とメディア・リテラシーを学ぶ

〔使用機器〕 ビデオカメラ、三脚、マイク、HOPS（インタビューの起こしと翻訳に利用）

(4) 映像制作

文献での調査と現地取材からドキュメンタリー映像作品を制作し、パソコンを活用した映像制作の技術とメディア・リテラシーを学ぶ

〔使用機器〕 パソコン、HOPS（資料の共有と構成表の共同作成に利用）、映像編集ソフト、ビデオカメラ、三脚、マイクなど